

敬老祝賀会歌集



知床旅情

① 知床の岬に はまなすの咲く頃

思い出しておくれ 俺たちのことを

飲んで騒いで 丘に登れば

遙か国後に 白夜は明ける

② 旅の情けか 酔うほどに さまよい

浜に出てみれば 月は照る波の上

今宵こそ君を 抱きしめんと

岩陰によれば ピリカが笑う



四季の歌

① 春を愛する人は 心清き人
スマレの花のような
ぼくの友だち

② 夏を愛する人は 心強き人
岩をくだく波のような
ぼくの父親

③ 秋を愛する人 心深き人
愛を語るハイネのような
ぼくの恋人

④ 冬を愛する人は 心広き人
根雪をとかす大地のような
ぼくの母親

明日があるさ

①いつもの駅でいつも逢う

セーラー服のお下げ髪

もう来る頃　もう来る頃

今日も待ちぼうけ

明日がある　明日がある

明日が　あるさ

②ぬれてるあの娘　コウモリへ

さそつてあげよと　待っている

声かけよう　声かけよう

だまつて　見てる僕

明日がある　明日がある

明日があるさ

③明日があるさ　明日がある

若い僕には　夢がある

いつかきつと　いつかきつと

わかってくれるだろ

明日がある　明日がある

明日があるさ

ふるさと

① 兔追いし かの山

小鮒釣りし かの川

夢は今もめぐりて

忘れがたき ふるさと

② 如何にいます父母

恙なしや 友がき

雨に風に つけても

思いいずる ふるさと

③ ころざしをはたして

いつの日にか 帰らん

山はあおきふるさと

水は清きふるさと